

ALIT (外国語指導助手) コーナー

皆さん、こんにちは。魚島のALITのアマドです。これは学年末の頃に書いています。学校のことと季節も変わっている間、僕は上島の経験について考えています。

三年前、上島町に来てすぐに、魚島の軽音楽部「ウオシマックス」に参加しないかと誘ってくれました。上島町役場の黒田栄一さんがリーダーを務め、学校の先生と魚島の若者が多いバンドです。前の二人の外国語指導助手もウオシマックスで歌っており、伝統になっていたかもしれません。実は、僕は中学校から高校時代を通じて合唱団で歌っていたけれど、大学の頃にあまりできなかったのです。喜んでバンドに加わりました。学校の近くの別館で定期的に集まって、グループ・サウンズや演歌の曲を練習しました。(皆は日本語の歌詞を覚える僕に感心して「いそがし」で、僕はコーラスにラテン語やフランス語の曲をたまに習ったので、よく慣れていきます。)祭りやライブで発表していました。本当に楽しかったです。

その三年の間、新しい人もここに転勤してウオシマックスに入ったり、メンバーが魚島から立ち去ってバンドから抜けることもありましたが、もちろん、学校にも、毎年送別会があって、転勤する先生を見送ります。

間もなく、僕が去る番になります。八月に帰国するから、今年の二月のライブは僕の最後だったでしょう。それに、ほかの「最後の経験」も次々にやってきました。僕の最後の魚島中の卒業式。最後の花見。少なくとも上島町での最後の時間です。僕がたとえ日本に帰っても、また上島町に住むことはないでしょう。それは悲しいけれど、その迫り来る出発日が上島町



のいい経験を思い浮かべます。バンドのことだけではなく、皆さんのもてなしの心と、子供たちと一緒に遊び、本当に感謝しています。日本にいる時間には限られていたので、その思い出は特に大事なものでした。

これは、子供の頃に一日でも長い間のように感じたことのようにでしょう。成長するにつれて、時間がそれをもっとと速めます。大人になると、一日はあつという間に過ぎてしまいます。けれど生活が変われば、子供のように時間がゆっくりしているようになつて、印象的な経験がたくさんあります。だから僕は大事な思い出をもっと得られるように、日本のあるところにも、多くのところに住んで、さまざまな経験をしたいです。それは、僕の「人生を大切に生きる」作戦です。生活が変わらなくても、そんな楽しみを持ち続けられるかもしれません。たとえ一生同じところに住んでも、その街のいい点が当然と思わないようにしてください。上島町に、桜がさくことを何回も見たいことあるかもしれないけど、今年も積極的に楽しんで。それに上島町の素晴らしい景色と優しい周りの人の価値もちゃんと気づいたらいいと思います。皆さん、いなくなる人たちの代わりに、この町のよさを楽しんでください。



各地区の英会話教室

- 《弓削》 毎週水曜日 19:30 ~ 弓削中央公民館
- 《生名》 毎週月曜日 9:00 ~ 生名公民館
- 《岩城》 毎週木曜日 20:00 ~ 生活文化センター
- 《魚島》 毎週水曜日 19:30 ~ 魚島開発センター

こんにちは 町長です

先日、佐藤正久参議院議員のお話を聞く機会がありました。

「ヒゲの隊長」で有名になった自衛隊



出身の方で、以前にも陸上自衛隊松山駐屯地での、自衛隊海外派遣を交えた挨拶に感動を受けた覚えがあり、今回は東北大地震での自衛隊の活動について、現場の状況を伝えて下さいました。

被災直後の視察で、現場の医師に「なぜ、そこまで一生懸命に頑張るのですか」と聞くと、被災した病院の患者さん全員を助けようとしたが叶わず、大半の方は屋上に避難させたが、お婆さんがベッドごと流されていくのが屋上から見えた。そのお婆さんはベッドの上で手を振り「ありがとう」と言ったそうです。震災直後、自衛隊員は七十二時間休みなく救助活動にあたり、地盤沈下した海岸と救護施設まで被災者を背負い、担架で運びながら何度も往復しました。小さなお子様が行方不明となり、自衛隊員は必死の搜索をしました。約三ヶ月後に御遺体で見えされました。若いお母さんは現場で膝をつきお子様を抱きしめ、「自衛隊の皆さんがあなたを助けてくれたんだよ、今度生まれ変わったらあなたも自衛隊員になつて、他人を助けてね」との言葉に、現場の自衛隊員は号泣されたそうです。

東北の復興はこれからです。上島町民の皆様の、更なるご支援をよろしく
上島町長
上村俊之